

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390800086		
法人名	有限会社 誠心会		
事業所名	グループホームゆとり		
所在地	熊本県山鹿市菊鹿町下内田75		
自己評価作成日	平成25年3月9日	評価結果市町村受理日	平成25年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成25年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境にあり、自然と密に接することが出来るホームである。朝には小鳥のさえずり等を聞きながら、四季の移り変わりを感じ取れゆったりとした環境で生活出来ている。入居者様には、入居当初より、十分なアセスメントを行い、自立支援、自己決定できるように、環境も整え、職員全員で協力し「その人らしさ」も充分考慮に入れながら、ケアを常に行っている。ホーム内はゆったりとした空間の中にも、笑い声が絶えず、わきあいあいとしている御家族にはできる限りの来所(面会)と行事には参加を促している。その都度、御家族には本人の様子をお伝えするようにし、認知症への理解をも合わせて理解頂けるように努力している。スタッフの外部、内部研修参加も多く、常にスキルアップを高めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

あんずの丘近く、道路より一段高い位置に、小規模多機能ホーム「音色」、有料老人ホーム「そよ風」と共に並んで建つ。そのため、あんずの丘で催される多くのイベントへの参加も容易である。また、法人独自のイベントも3施設合同で協力して、賑やかに規模も大きく開催。敷地から一段上に畑があり、園芸療法も兼ね野菜を作り、秋には栗が多量に収穫できる等、入居者と協力して食事に供されている。尚、毎月1回以上の家族の面会が入居条件になっているため、家族の来訪・イベント時の協力も多く、職員は、医療、福祉の専門職が複数配置され、医療処置、看取りも可能となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所が掲げている理念を職員一人一人が分析し、それに沿ってケアしている。常に考え、入居者様の生き方を援助している。	有限会社誠心会の理念をホームで共有。一人ひとりの最良のケアをめざし、事業所内外の研修も多く、事業所内の会議でも理念の共有とケアの実践のためにどうすべきかを全員で話し合っている。	グループホームの特性を踏まえ、事業所独自の「理念」が職員全員で作成されると良いと思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に事業所を理解して頂くためにも、地域の方々がどなたでも参加頂ける夏祭りや餅つきへ声掛けを行う事で、年々参加者が増えている。また、地域の行事へはこちらから出かけ(小、中運動会、敬老会、文化祭等)にもできるだけ出かけている	夏祭りやもちつき等のイベント開催時は、職員が手分けして区長会、老人会、学校や個人宅を一軒一軒訪問し案内し、現在約200名もの参加がっており、地域住民の楽しみとなっている。また、保育園のお遊戯会や敬老会等へ出かけた時、社会福祉協議会文化祭フリーマーケットには入居者と職員が共同制作した「アクリル毛糸製タワシ」を出品する等、積極的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症への理解の為に地元中学校での子供サポーター養成講座(絵本教室)、認知症サポート交流会月1回、認知症になっても安心して暮らせる町づくりフォーラムin山鹿に参加する事で、理解を深めている。また、事業所の行事の参加(ソーマン流し、餅つき等)に地元の子供達にも参加して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。民生委員・地元の介護保険課・包括支援センターの担当・サポートリーダー・家族の参加を得ている。それぞれの立場からの意見を頂いている。そこからの出た意見を社内での会議等で再度検討する機会を設けている	運営推進会議は、隣設の小規模多機能ホーム「音色」と合同で開催されるが、議題はそれぞれに協議されている。駐在所からも出席がありオレオレ詐欺の注意喚起があったり、山鹿市と共同で行った徘徊模擬訓練についてアドバイスを頂いたり、意見を受けて運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃の連絡体制はもとより、包括支援センターや介護保険課が開催する会議などにこちらも参加したり、包括担当者の運営委員会での参加によって情報収集や指導、意見交換などで交流を図っている。	市介護保険課には月1回は出掛け、介護保険や利用者受入れに関する質問や情報収集など行っている。また、地域包括からは、新しい入居者がいると様子を見に来訪されるなど、利用者の状況等について、密に連携を取りあっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為・身体拘束がもたらす弊害を理解し、人としての尊厳の侵害も生まないように職員研修を定期的に行っている。身体拘束はしていない。又、身体拘束の理念を掲示する事で、内、外部とも意識を高めている。	「身体拘束排除宣言」を大きく壁に掲示し、常に意識しており、身体拘束は行っていない。居室には高めの腰窓があり、そこから出てしまう入居者もいるが、同じ敷地内の他事業所と連携し、全員の気配り・目配りで見守っている。外部研修に参加後は職員会議で報告し、ケア会議の中で、言葉による拘束も含めて事例をあげての勉強会を行うなど、身体拘束をしないケアへの理解を深め、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待、不適切なケアの防止に関する研修を受け、職員会議での報告をし、日頃は職員全員でお互いのケアについて虐待に当たるのかをその都度ことある事に話し合っている。事業所玄関、窓も暗くなるまではの施錠は日頃は行っていない		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際の活用はないが、外部研修で学ぶ機会がある。研修に参加していない職員に対しては、会議での勉強会などで参加したスタッフが発表するように努めている。また、マニュアルもスタッフがいつでも閲覧できる場所に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、しっかりと時間をかけ、事業所の内容を家族、本人も含め、きちんと説明し、納得頂いた上で、署名、捺印を頂く。又、家族の不安や分からないことなど質問にも充分答えるようにしている。契約後にも、再度契約内容を確認して頂き、少しの疑問点でも随時お答えできる体制を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一回家族会を開催し、職員は家族の思いや意向を傾聴するように努めている。改善できるものは、早期に改善するように努めている。又、面会の度に運営等に関する、要望がないか確認し、事業所での月1回の会議でも取り上げている。必要時にはその都度上司にあげるようにしている。	入居者からは、日頃の暮らしの中から意見を聴き取り、家族からは毎月1回以上ある訪問の際、意見・要望等を聞きとっている。家族会は年に1回開催し、約半数の出席がっており、撮りためた入所者のスライド映写会を行い、担当が入所者の様子を話している。意見交換ではイベント協力への意見は出るものの、ケアについての意見はあっていない。	家族会へは職員も出席しているが、ある時点で職員は席を外した方が、家族同士で意見等を出しやすいと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議には法人代表・管理者と参加し、職員の意見を聞いている。必要に応じて、上司、管理者とは面談、ミーティングを行い出来る限り意見を反映できるように努めている。又、起案書は誰でも出せる環境を整えている。	月1回の職員会議は、議題を1週間前に通達して全員参加で1約時間開催している。職員は誰でも意見や起案書を出すことができ、その思いを運営に活かしている。法人代表、管理者とも話しやすい環境にあることが職員の聞き取りからも確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給時・賞与時には自己評価を実施し、個人面談を行う。日頃のスタッフの個々の努力や勤務状況を加味し昇給につなげている。その他、会社内・外の研修も多くスキルアップの機会も多くする事で、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修多く、参加の機会多い。今年は、月に一回認知症の研修・接遇の研修とありスキルアップすることができた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会会議への参加。GH連絡会の研修への参加も毎回して行くことで、交流は図れている。研修の中でのグループワーク(スタッフ同士)は特に情報交換の場となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活の場(自宅・病院)へ出向き、必ず本人に会ってアセスメントし、本人の思いに向き合うようにしている。又、キーパソン、近所の方、関わりのある民生委員等も面談し、家族、本人のアセスメント(基本情報、生活歴、出来ること出来ない事等)をできる限り行う。常に傾聴に努め、知り得た情報は真摯に受け止めている。まずは家族、本人とスタッフとの信頼関係の構築に全力で努めながら、柔軟にサービスを導入して行く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族・本人の要望を出来るだけ引き出しながら、必要によっては、何度も面談を行い信頼関係をはかるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、ご家族の思い、状況などを確認し、どのようなサービスが必要なのか、どんな方法がいいのか？ホーム入居以外の選択が必要ではないのか等の助言している。そして本人の出来る事に着目しながら、現在の必要な支援方法を見極めて行く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気大切に、利用者様の今まで生きて来られた力(らっきょづくり、梅干しづくり、畑仕事)など教えて頂きながら、利用者様、職員お互い協力し一緒に生活できる環境づくりを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に、ケアを考え、常にご家族に報告。情報の共有を図り、受診や外出などご家族が出来ることは出来る限り協力して頂いている。行事での参加はもちろんして頂く事で一緒にケアを行っているスタンスを持って頂くようにしている。(今年は餅つきでは、ご家族の方が豚汁作りをして頂き、協力して頂いた)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の地元のサロン、敬老会参加への支援をご家族とスタッフと共に行っている。又、ご家族だけでなく、近所の方、民生委員等の面会で交流も得ている。又、隣接している小規模利用の方、有料老人ホームの方の知人に自由に会いに行ったりして出来る限りの馴染みの関係の継続に努めている。	馴染みの場への外出は基本的には家族に働きかけ、家族と共に温泉や馴染みの美容室に行かれており、地元の介護予防サロンや敬老会には家族、職員で送迎している。また、散歩の途中で地域の方と出会ったり、隣接の小規模ホームや有料老人ホームへ自由に行き来して知人と会うなど、馴染みの場所との関係継続支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の助け合い等も見られ、関係性出来ている。職員は食事を一緒にしながら、ゆっくり傾聴する時間を持ち、入居者様同士の関係が円滑にいくように対応している。又、利用者様1人1人が孤立せず、レクリエーションを一緒に楽しんだり、お互いの会話の橋渡しをしながら、日々の関わりを持てる環境作りをしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談を受けたり、その後の状況を電話で伺ったりしている。又、御家族には行事(夏祭り等)への参加のお誘いを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が生活して行く中で、何気に発する言葉や表情、状態の変化を見逃さず、小さな変化に気づき、考慮して、ケアを柔軟に検討して行く。又、センター方式やわたしのくらしまとめシートを活用しながら、出来るだけ本人の希望に添えるように努力している。ご家族やご近所の方からも情報を得るようにしている。	センター方式を用いて職員が描いた入居者そっくりの似顔絵を中心に、詳細な記録がなされており、「本を読みたい」「花を植えたい」など入居者の要望には出来る限り対応している。希望を言葉に出せない方は、身ぶりや表情から気持ちを推測し、自分の身内だったらどうするかと考え、意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人が分かる範囲の聞き取りを中心に、センター方式を利用し、今までの生活スタイル・生活歴の情報を多くつかむ。又、地域の方からの情報も収集し、本人の思いをさぐるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録の重要性を認識した充実した記録を残し、状態変化に応じての一日の過ごし方を把握できている。出来る事出来ない事シートの活用。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時、常に状態報告をし、要望など常に傾聴し、介護計画に反映できるように努めている。又、職員全員が一人一人を把握し、常に話し合い検討している。	家族の訪問時に、ホームでの状況を説明し、家族の意向を聞き、入居者の気持ちも汲み取り、職員全員で協議して介護計画を作成している。毎月、モニタリング・カンファレンスを行い、変化があれば計画を見直しており、現状に即した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活の中での小さな変化に気づき、記録に残し、日々変わる状態を把握し職員の視野が広げ、ケアの話し合いをその都度行う。それによって本人の思い、の変化や希望につなげるケアプランを作成しながら、柔軟にプランの見直しが出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に変化があった場合はその都度柔軟に相談、対応している。外出・外泊中の相談にのったり、外泊中困ったことがあれば、職員が自宅へ行くなどして、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れなどを通じて、地域との関わりを深めている。運営推進会議などを通して、(民生委員、駐在所)いろいろな関わりを見出す努力をしている。又、地域への外出(商店への買い物、郵便局)も支援する事で地域資源の活用も取り入れている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医療機関(内科、歯科)を確保するとともに、定期受診は、基本的にご家族へお願いしているが、急変時には往診に来て頂いたり、ホームから受診に同行したりしている。又、かかりつけ医継続の方への受診支援をおこないながら、状態によっては専門医(皮膚科、泌尿器科)の受診も柔軟に支援している	歯科医や連携医院(富田内科)の訪問もある。かかりつけ医の受診は基本的に家族の送迎だが、重症化した場合は職員が送迎・付き添いをし、家族とは病院で落ち合うこともあるなど、適切、十分な受診支援ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の指示受けを行いながら、利用者様の健康管理・相談を含め、服薬管理、受診付添等を行いながら、職員・家族との情報の共有化をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、早急に病院には情報提供をしている。必要に応じて電話での情報交換も行っている。入院、退院、入院時のお世話も家族と協力しながら柔軟に支援を行っている。又、こまめに見舞に行く事で本人の状態の(心身の経過観察)の把握に努め病院との連携を行いながら、早期退院に向け情報の共有に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には現時点での家族の意向を確認しているが、状態に合わせて早い段階と終末段階に合わせて家族・本人の意向をその都度確認する。又、揺れ動く家族の希望や意向を踏まえながら、細やかに経過情報を伝え、話し合いの場を何度も設け意思確認を行なう。	重要事項説明書には重度化した場合、急性期における医療機関との連携や看取り介護の考え方について詳細な記載があり、入居時に説明が行われている。重度化した場合は、話し合いを重ね、その時の入居者・家族の意向を第一に、医療機関と連携を取りながら、ホームで出来る限りの介護・支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部・内部研修や消防訓練時に消防隊員からの研修で職員は、急変時や応急手当の知識を学んでいる。緊急時対応、事故発生時の研修は定期的おこなう。また、事故等の発生時報告書は速やかに提出し、事例検討を会議で話し合うようにもしている。(ヒヤリハットの検討もあわせて行う)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に二回、消防署参加型の避難訓練と、自主訓練、夜間と昼間を想定し実施している。入居者様にも参加して頂き、終了後には消防署よりアドバイス頂き、その都度改善を行っている。参加スタッフには復命書の提出により、訓練だけで終わらないようにしている。毎日その日と消防隊長を決め、入居者様の人数確認を行なう。	スプリンクラーは設置済み。年に2回の避難訓練(夜間訓練1回含む)実施。毎日、各勤務帯に消防隊長が決められており、法人代表は抜き打ちにその時の消防隊長に今現在の職員数・入居者数を尋ねて自覚を促している。また訓練参加後は、職員全員が復命書を提出し、気付きや反省を次に活かしている。	消防団との連携など、地域の協力体制の構築は今後の課題であり、引き続き運営推進会議等での検討が望まれる。また、入居者の避難誘導順位も決めておくと、より有効と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を行う事により常に尊敬の意を表す言葉づかい、姿勢を忘れず今までの生きて来られた人生を尊重している対応を心がけている。また、入居者様の一人一人の性格や行動を把握し、その日の状態に合わせて柔軟に言葉かけを対応している。	接遇研修の実施により、一人ひとりの尊重への理解が深まり、言葉使いや対応等も向上している。方言の使用時は、語尾に注意し不快を与えないように等注意をしている。レクリエーションは参加を強制せず、洗濯物たたみや掃除に関しても「～して下さい」とは言わず、入居者の自発的な行動に任せている。オムツ交換はトイレ内での実施となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者本人が自分で自己選択できる機会を作るように心掛けている。毎日の服装はご自分で選んで頂く等の自己決定を原則に対応に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心にならない、利用者一人一人の一日の生活が出来る支援が出来るように努めている。時間にまどわされず、入居者様のペースに合わせて散歩に行ったり、好きな時間に入浴するようにしている。その人らしさを尊重しながら、柔軟に対応できる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は毎日のひげ剃りを日課とし、女性は、誕生会、外出時などお化粧をする環境を整えながら、毎日の衣類もきれいに洗濯されたものを着ていただいている。カットは本人が希望される時におこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に食事作りをすることで、入居者様も満足感があり、おいしく食べることが出来ている。入居者に合わせて、食事の形態を考え準備している。基本形のあるものを食べて頂けるような努力をしている。	献立は、「ゆとり」独自で1か月分を作成。敷地内の畑の作物や住民や家族から提供された野菜等も活用されている。調理師免許を持つ職員もおり、美味しい食事を供し職員も同じものを一緒に食べている。誕生会には本人が好きなものを提供したり、出張寿司が供されることもある。自分の役目と思い、笑顔で食器洗いを手伝う利用者の姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算まではしていないが、家庭料理を提供している。材料は、出来るだけ新鮮なものを使用し、地元の米・野菜などを中心に使用している。水分量も一人一人に合わせて摂取量を確認し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。出来るだけ自分で行っていき声掛け支援を行いながら出来ない部分のみの支援を行い、口腔内清潔保持出来ている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録し把握できている。尿意・便意を大切にしながら、トイレ誘導を行い排泄出来るよう支援しながら、日中のオムツ・パット使用も最小限にすることを念頭におき、常に検討している。	時間による誘導や落ち着きがない様子の際にトイレへ誘導することを継続して、オムツが不要になった方もおり、完全自立で見守りだけの方もいる。山鹿市は要介護度3以上の人へは1ヶ月1万円のオムツ代補助があり、できるだけその範囲内で収まるように自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操や、腹部マッサージを行い、水分摂取にて自然排便へとつなげるようにしている。水分摂取が苦手な入居者様にはご家族と相談し、ジュースなどの飲み物で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴する時間があり、入居者に合わせて入って頂ける環境を整え、清潔保持に努めている。又、体調や失禁状態に応じて入浴日、時間も柔軟に対応している。プライバシーにも十分配慮しながら、個別入浴を行っている。	入浴は最低でも週に2～3回、希望すれば毎日の入浴も可能。汚染時はシャワー浴や臨時の入浴で対応している。菖蒲湯やゆず湯の楽しみもあり、同性介助や状態によっては2人介助もあり、入居者に合わせて対応している。入浴時は、入居者が一番心許せる時間であり、一緒に入ってゆっくり話をする職員もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照明の調整を行い、心時良い環境を作りながら、休んで頂けるようにしている。昼夜逆転にならないように、注意しながらも休息したい時には畳やこたつなどで、自由に休めるようにしている。自室のみにこだわらず、本人が安心してくつろげる空間(畳みの部屋等)でも自由に休んで頂ける環境作りを行う		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬管理を行い服用して頂いてる。薬の変更時は、経過観察を行い、記録に残し必要時はかかりつけ医へ相談。又、居宅療養管理指導サービスを受けながら、薬剤師との連携にも努め、総合的に服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割づくりが出来る環境を作るようにしている。季節感を肌で感じる事が出来る、外出(花見・菊・しょうぶ)などの見学も行っている。盆栽が趣味の方はご家族に依頼し、ホーム内での手入れを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常、散歩、外気浴、買い物など入居者の体調や天候に合わせて行い、四季おりおりの花見や運動会見学など出来るだけ出かける機会を計画している。本人の希望する自宅への外出・外泊の支援も行っている。本人の好む嗜好品(生活暦の中から)等はご家族の協力を得て提供できるものは行っている	買い物、帰宅、散歩には日常的に支援している。花見は手作り弁当持参で一本松公園、相良観音などへ2～3回出かけており、彼岸花やコスモス・菊・藤・菖蒲などの花見や、ロードレースやマラソンの応援など、頻繁に出かけている。外出は家族にも呼びかけ、又、地区の馴染みの人に会える場としても活用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族が管理されているが、本人様がお金がないことで不安になられる方は家族の了解のもと安心されるお金を持たれている。実際は使用される事は現在はない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話は子機使用し、部屋でゆっくり話されることのできるように配慮している。又、かけたいとご希望される時は、いつでも電話できるようにしている。荷物や手紙が届いた時は本人に開封して頂き、喜んで頂けるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わうことのできる空間(掲示物など)を入居者様と一緒に作り、季節感を出すように心掛けている。自宅のような畳の部屋に掘りごたつがあり、ゆっくり過ごす場所がある。掃除は徹底し、臭いやほこりに注意する。TVや音楽などつけっぱなしにせず、生活にメリハリをつけるようにしている	居間は明るく、入居者が職員と作成した桜花爛漫の大作が飾られており、装飾は季節ごとに変えられている。和室は堀コタツがあり、リラクスの場として活用されている。BGMは民謡、童謡、軍歌などが流されるが、一定したものでなく入居者の状況に合わせて選曲されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日々の生活の中で床の間のある畳の部屋、掘りごたつ、ホールソファなどのくつろげる場所がある。又、暖かくなると、テラスでお茶を飲めるスペースがある。季節感の感じ取れる空間作り(音、室温、明かり)を心がけ、落ち着ける環境作りを行う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得て、使い慣れた家具、小道具・壁掛け・写真などを持ってきて頂き、入居者様がホッとする安らぎのある部屋に出来る工夫を常にしている。	居室には、押入れ式のクローゼットとベッドが設置され、寝具、茶碗、湯呑み、箸などは使い慣れた物を持ち込んでもらい、くつろぎのある部屋作りを支援している。尚、居室には仏壇、写真などの持ち込みも見られ、ベッドから畳へ交換する等の例もある等、自分の部屋としての意識づくりを大切にされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来ることを把握し、出来ることをして頂く支援を行い、達成感を味わってもらうことで、自信・意欲・向上に努めている。できない事の支援より、できる事への支援を中心に入居者様の生活支援を考えている		